

29	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102030	応力誘起変態制御によるインバー合金の開発と工業材料への展開	石田 清仁(東北大学・大学院工学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、相変態を利用して熱膨張係数を制御する方法の確立を目的としたもので、その成果は相変態の新たな応用に関する新局面の展開につながるものと評価できる。</p> <p>マルテンサイト変態による二方向形状記憶効果を利用した低熱膨張材料について系統的な研究が行われ、この結果、室温付近で低熱膨張率を示す合金材料の開発に成功し、当初の研究目的は概ね達成されている。また、研究過程で派生的に見いだされた制振特性、超塑性特性、超弾性特性等の研究についても今後の発展が期待される。</p> <p>ただし、中間評価で指摘されていた耐熱性の改善については、研究が十分であるといえず、今後の課題として残されている。</p>				
30	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14103011	超好熱始原菌 <i>T.kodakaraensis</i> KOD1 の全遺伝子機能解析	今中 忠行(京都大学・大学院工学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>原始生命体に最も近いといわれている超好熱菌の全遺伝子機能解析を目的とした研究で、全遺伝子の機能解明は研究期間内に達成されなかったが、中間評価に従い重要な細胞内機能を担う遺伝子を数多く特定しており、研究目的を概ね達成している。機能未知遺伝子の機能解明はポストゲノム時代の最重要課題の一つであり波及効果も高く評価できる。</p> <p>また、中央代謝にかかわる遺伝子機能を研究対象の中心的課題としており、研究発表論文の数も質もきわめて高い。</p>				